

事例⑤

自閉症・情緒障がい学級の生徒が活動の見通しをもちやすい指示の工夫

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 子どもに指示が上手く伝わらず、理解させることができない。

- ② 主体的な学びを促す
「分かって動ける」授業づくり

◆例えば、「技術科」で、こんなことからはじめてみましょう。

- ☐ 技術科「ティッシュBox作り」
- ☐ 中学校
- ☐ 特別支援学級（自閉症・情緒障がい）

本時の目標

- ・ 工具を安全に正しく使いながら、見通しをもって作業することができる。

ファーストステップ②

- ・ 生徒が、教師の説明に注意を向けられるよう、ホワイトボードを活用して、生徒の近くで説明しましょう。



【作業内容の説明をする様子】

	学習活動	手立て／留意点
導入	○ 単元の説明 ○ 本時の目標と流れを確認	<u>作業のゴールイメージを示した上で、本時の作業内容と手順を確認</u>
展開	○ 材料の確認 ○ 材料に名前を書く。 ○ 使用用具の確認 ○ 定規で測って、材料に線を入れる。 ○ 材料を切る。（ノコギリの刃の確認）	※袋に入っている材料を1つずつ確認 ※どこに名前を書いたか、指差し確認 ※材料を並べて、けがき線を確認
終末	○ 片付け ○ 振り返り ○ 次回の予告	

ファーストステップ③

- ・ 作業時間の終わりや、片付けの時間を視覚的に理解できるように、タイマーをテレビやスクリーンに大きく表示しましょう。

ファーストステップ①

- ・ 生徒が理解しやすいよう、作業手順は、
 - ①長さを測る（計測）
 - ②線を引く（けがき）
 - ③切る（切断）
 というように、シンプルに3つ程度にまとめて提示しましょう。



【スクリーンに表示したタイマー】